

令和6年度学校評価(自己評価及び学校関係者評価)

兵庫県立氷上西高等学校

学校教育目標

教育目標

校訓—「自主 互譲 責任」を理念として、生徒一人一人の個性と能力の伸長を図り、人間としての誇りと豊かな心を育み、活力あるたくましい生徒を育成する。

スクール・ミッション

「自主 互譲 責任」の理念のもと、未来を生き抜くためのチャレンジ精神、主体的に学ぶ力、豊かなコミュニケーション能力を備え、地域に根ざし、明日の地域を担うことのできる人材を育成する。

スクール・ポリシー(三つの方針)

育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)

- ① まちづくり活動や地域の活動を通して、地域に貢献する生徒を育成する。
- ② 仲間と協力し、明るく元気でたくましく生き抜く生徒を育成する。
- ③ 社会とつながる学びを通して、自分に誇りを持つ生徒を育成する。
- ④ 互いの立場を理解し尊重し、助け合う温かい心を持つ生徒を育成する。
- ⑤ 規範意識を身につけ、自らの生き方を見つめ、自ら考え学ぶ生徒を育成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

- ① 連携型中高一貫教育校として、連携中学校との活動の充実を図る。
- ② 地域社会と連携した課題解決的な学習活動を展開する。
- ③ 生徒の「やりたい」を大切にしながら実践的、体験的な探究活動を展開する。
- ④ 小規模校の特長を活かし、少人数授業や個別指導の充実を図る。
- ⑤ 分かる授業や「学び直し」を展開し、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。

入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

- ① 多様な学びに自ら積極的に取り組む生徒を募集する。
- ② 他者を認め、他者と共に前進する生徒を募集する。
- ③ 自分の夢と可能性を信じ、困難なことにも立ち向かう生徒を募集する。

重点目標

生徒が主体的に行動し挑戦することで一人一人の可能性を伸ばす教育活動の推進

- 1 生徒理解に基づく生活指導をとおして、基本的な生活習慣や社会人として求められるマナーを確立するとともに、互いの立場を理解し尊重し助け合う温かい心のかような人間関係づくりを図る。
- 2 小規模校の特性を生かした教育内容や指導方法を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図り、学ぶ意欲と学力を高めるとともに、進路実現のための取組や資格取得の機会を強化する。
- 3 学校行事や生徒会活動・部活動・ボランティア活動などをとおして、体験的・実践的な学びの中で達成感・自己有用感を育み、母校と自分に誇りを持つ生徒を育成する。
- 4 地域との連携を深め、まちづくり活動や地域の活動に参加することで、自己実現とキャリア形成を促し、地域に貢献する高い志を持つ生徒を育成する。
- 5 連携型中高一貫教育校として、6年間をとおして生徒を育成する連携・交流のあり方を研究・実践し、連携中学校とともに、より一層の教育活動の充実を図る。
- 6 広報活動の積極的な展開により地域の理解を得るとともに、開かれた学校づくりを推進する。
- 7 生徒の能力・適性、興味・関心や多様な進路希望に基づき、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。

学校自己評価

[評価] 4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった

番	領域	評価の観点	令和6年度実践目標	R6 平均	R6 評価	R5 平均	R5 評価	
1	開かれた学校 づくり	中学校との連携事業	本校文化祭、連携中学校文化祭、授業公開などの教育活動を通して中高の連携を推進し、生徒の活躍の様子や本校の特色・魅力を連携中学校に伝えていく。	3.3	A	3.4	A	
2		中学校との生徒会交流	生徒会役員がリーダーとなり、中学生と一緒に、道の駅の夕べなどの企画や運営を行う。また中学生に対して、探究フェス、オープンハイスクールなどの機会に学校紹介プレゼンを行う。	3.1	B	3.1	B	
3		地域への貢献	本校生徒全員が1人1つ以上のボランティアに参加することを目標に、生まれ育った郷土を愛する心や、地域に貢献する姿勢を養う。	3.1	B	2.9	B	
4		広報活動の充実	スクールニュースやHPを充実させ、保護者や地域の方々に本校の活動を理解してもらうとともに、学校行事の見学や公開授業・探究発表会へ参加してもらうよう促す。	3.3	A	3.6	A	
5	学校運営	生徒指導	生活習慣の確立	あいさつや掃除の徹底、遅刻の防止、服装、頭髪等の校則違反を防止し、規律のある学校をめざす。	2.5	B	3.0	B
6			小規模校ならではのきめ細かい指導	生徒との面談やスキルアップシートなど日常的な観察をとおして生徒理解に努め、すべての教員が生徒の情報を共有することで、生徒理解に基づくきめ細かい指導を行う。	3.5	A	3.8	A
7			生徒指導体制の推進	校則違反、問題行動の防止のため、昇降口での登校指導と校内外の巡回指導を実施する。いじめの早期発見と未然防止のため、学校生活に関するアンケートと随時面談を実施する。生徒指導部と学年担任とで連携し、組織的に機敏な対応を行う。	3.0	B	3.5	A
8			学校行事の充実	体育祭、文化祭等の学校行事に生徒が主体的に取り組む場面をつくり、積極性や協調性を育てる。	3.5	A	3.7	A
9			部活動の活性化	部活動に積極的に取り組む生徒の数を増やし、明るく活気あふれる学校をめざす。	2.5	B	2.9	B
10	進路指導	進路指導体制の充実	個に応じた指導を行うため、個々の学力把握、ポートフォリオを実施し、必要な進路情報を提供する。	3.3	B	3.2	B	
11		進路意識の向上	体験的な進路ガイダンスを実施するとともに、地域社会と連携したボランティア体験等を通して、体験的に進路意識を醸成する。	3.5	A	3.4	A	
12		職業観・勤労観の育成	進路ガイダンス、インターンシップ、社会人による授業等を通して、望ましい職業観、勤労観を育成する。キャリアノートを軸にして系統的に進路指導を行う。総合的な探究の時間を軸にして探究的な進路指導を行う。	3.3	A	3.6	A	
13	教職員の資質 向上	授業改善	教科の枠を越えた課題に対して、全教員で研究授業に取り組むことにより授業の見直し、改善を行うための機会とする。	2.7	B	2.9	B	
14		計画性を持った研修の実施	教育相談、特別支援教育、ICT活用、進路指導等の諸問題について校内研修を計画的に実施する。	3.0	A	3.4	A	
15	環境整備	落ち着いた学習環境の整備	清掃やごみの分別を確実にし、公共心と責任感を育てる。ロッカーを利用するなどして教室の環境整備を徹底する。	2.6	B	3.1	B	

16	教育課程	自ら学び考える力の育成	自主的に学ぶ授業場面	探究活動やグループワークなどの活動を工夫し、授業において積極性や協働性を形成し、主体的・対話的で深い学びを促進する。	3.0	A	3.4	A
17		基礎基本の定着	学習評価の工夫	学習活動の具体的な評価規準を提示し、生徒の学習意欲を高めるような学習活動の評価を工夫する。	2.8	B	3.0	B
18			学び直しの工夫	学校設定科目パワーアップを軸に、授業や補習等の内容の工夫を行い学び直しの機会を充実させる。	3.1	B	3.4	A
19		個に応じた学習指導の徹底	指導方法、指導内容の工夫	習熟度別授業や少人数指導によりきめ細やかな学習指導を実施し、指導方法や指導内容の工夫を行い、個に応じた授業づくりを行う。	3.4	A	3.6	A
20	各類型特色化の推進		生徒個々の進路と興味に応じた類型による教育を推進する。目的意識を持って各種資格試験等に意欲的に取り組ませる。	3.3	A	3.4	A	
21	課題教育	防災・安全教育	実践的な安全教育への取組	防災避難訓練を実施し、職員・生徒を対象に危機管理意識を高め、安全教育を推進する。職員と生徒を対象としたAED心肺蘇生講習会を実施する。	3.5	A	3.8	A
22		人権教育	確かな人権意識の育成	課題に応じた人権ホームルームを各学年で定期的に行う。人権研修会を実施し、互いに認め合い協力する等、一人一人の人権意識の高揚や認識の拡大を図る。	3.2	B	3.3	B
23		特別支援教育	チームで行う特別支援教育	校内研修会や合同研究会を行い個々の教育的ニーズに応じた取組を学び、関係機関から助言や情報提供を得たりすることで専門性向上を目指す。氷上特別支援学校やキャンパスカウンセラーとの連携により、多角的な視点で日々の学習指導や生活指導を行う。また、日頃より生徒の細かな変化を教職員で共有する。	3.3	A	3.9	A
24			連携による切れ目ない支援体制の構築	サポートファイル、中高連携シート、指導計画、支援計画を用いることで切れ目のない個別最適な指導・支援につなげる。また、卒業後も支援を受けられるよう本人、保護者、関係機関と連携した切れ目ない支援の方法を構築する。	3.2	B	3.7	A
25		社会人基礎力	心のサポートシステム研究開発	小中高連携、地域連携を推進し異年齢の考え方を理解し、自尊感情を高め、自己有用感を育て、社会人基礎力を育成する。	3.2	B	3.4	A

学校関係者評価

- ・少人数の学校であるが、高校無償化で私立に生徒が取られないか？もっとアピールが必要である。今後は不安である。
- ・やりたい部活がないから続けられない。
- ・挨拶が少なくなった。しっかりと指導して欲しい。
- ・この地域は、園小中高とそろっている良い環境。ボランティアで関わり、授業でも絵本の読み聞かせで関わっている。小さい子と関わることで生徒はいろいろ考えている。
- ・地域の力が必要。今後も関わりを持っていきたい。
- ・職員の働き方改革で月2回の完全定時退勤日はよい取り組み。先生が生き生き働ける場であってほしい。
- ・佐治クラブで探究やボランティア受け入れをしている。探究は生徒が考え、研究より実践するところは西高らしい。今後もサポートしたい。
- ・eスポーツの事務局もしている。部員も増え地域にも出ていけている。アンケートを取りながら様々な活動に取り組みたい。次は、進学意識につながればよい。
- ・強みは・地域密着・小規模・小中高連携。課題もあるが生徒に力になっている。
- ・eスポーツは否定していたが、高齢者との接点になっている。イベントがあり高校生もいる、世代間交流のツールになればよいと思う。
- ・小規模の西高では生徒を理解して進路指導をしていただいている。
- ・PTAや地域にも県に伝えていることをアピールしてほしい。新聞に取り上げられるのも青垣が多い。氷上中との連携もいろいろな形でしてほしい。
- ・eスポーツが一番入りやすい。芦田ふれあい祭りもブースを作り大変盛り上がりがあった。
- ・活動の記録は素晴らしい。